

～古賀院長エッセイ～

次代への風



脳の機能改良

日本のスーパーコンピューター「富岳」が世界最速の1位を獲得したことや、将棋界の新星、藤井聡太君が史上最年少記録を塗り替えたことなどは、多くの方が喜ばしい事として、ご存じだと思います。一体これらの機械や人間はどんな頭をしているの？と思いますよね。富岳は2番ではだめなのか、と言われた後に様々な観点から改良を加えて完成しました。藤井君も幼いころから何度も負けを繰り返し、最速で将棋脳を改良発展させてきました。

脳ではニューロンと言われる神経細胞がネットワークを作って情報処理を行います。ニューロンは脳全体で2000億個ほどあると言われています。そして各々が数百兆個のシナプスと言われる部分でつながり、しかも日々変化を繰り返しています。

新しい環境や条件に適応するには、脳のネットワークを改良発展させていかねばなりません。人工知能(AI)は本来人間に備わった脳の学習機能を機械的に再現させようとしているものです。ある面では人間以上の機能を発揮できるようになっていますが、一人一人の脳の学習機能を再現させることは不可能です。

時代が大きく変化していく予感がある近頃、それに適応していけるように、AIにはできない、自分の脳の改良に、それぞれが取り組む必要があります。感じ、考え、動くという基本を意識して、良い刺激を与え、余計な考えを排し、無理なく自然に動くということを繰り返せば、いくつになっても自ずと脳は改良発展します。逆に、悪い刺激、考え、行動で、脳は混乱し、暴走、退化しますので気を付けましょう。



院長語録

毎朝の朝礼での一訓をご紹介します。

- 勉強は感覚神経を研ぎ澄まし、
良く観察する事がまずは必要。
それが知識に裏付けされた行動につながる。